

## キャンパスコミュニティにおけるライフスタイルの研究：Y高専の寮生の生活

冷川, 昭子  
九州大学健康科学センター

蘭, 千壽  
九州大学教育学部

原田, 純治  
九州大学教育学部

宅島, 章  
八代工業高等専門学校

<https://doi.org/10.15017/375>

---

出版情報：健康科学. 3, pp.169-176, 1981-03-30. 九州大学健康科学センター  
バージョン：  
権利関係：

# キャンパスコミュニティにおけるライフスタイルの研究

— Y高専の寮生の生活 —

冷川 昭子\* 蘭 千壽\*\*  
原田 純治\*\* 宅島 章\*\*\*

## Study of Life Style in Campus Community —Life of boarding Students—

Akiko Hiyakawa\* Chitoshi Araragi  
Junzi Harada\*\* Akira Takushima\*\*\*

### 1. はじめに

熊本県のY高専では昭和53年度から入学後1年間の全寮制が施された。全寮制は学生生活にどのような影響を与え、今後、指導者はどのような配慮を行なっていく必要があるかを明確にすることを目的として、全寮生を対象に質問紙調査を行なった。調査の内容は、(1)学園生活・寮生活に関するもの、(2)環境適応・ソシオメトリックテスト、(3) Self-Esteem、(4)親の養育態度、(5)その他から成っている。

今回は、(1)の分析結果について報告する。

### 2. 対象および方法

Y高専は、1年から5年まで在籍する。今回の調査対象者は寮生活者に限られ1年125名、2年69名、3年43名、4年35名、5年30名である。調査は、寮務委員(教官)の有志によって、寮生全員がそろそろ金曜日の午後8時以降の時間に実施された。実施の時期は、昭和54年7月(2~5年)と11月(1年)の2回に分けて行なわれた。質問紙の構成は、I学校(生活18)、II寮生活(2)、III家庭(9)から成っている。

### 3. 結果および考察

#### (1) 学校生活満足度

学校生活の満足度にかかわる6項目について5段階で評定を求めた(表1-1)。

1) 入学願望度: 全学年で、「非常に強く希望していた」6.6%、「かなり強く希望した」33.1%で、合計39.7%が強く希望して入学した。また、「あまり希望していなかった」16.9%、「全く希望していなかった」1.7%で、合計18.6%は希望しないで入学していた。各学年の平均得点でその希望度を高い順にあげると、1年(3.41)、4年(3.40)、2年(3.13)、5年(3.00)、3年(2.98)の順であった。

2) 入学努力度: 全学年で、「非常に努力した」3.0%、「かなり努力した」26.8%、「普通」44.0%、「あまり努力しなかった」21.5%、全然努力しなかった」4.6%であった。努力度を学年で比較すると、5年が平均得点3.63でもっとも高く、ついで2年3.13、1年3.06、4年3.05で、3年は2.61で極端に低かった。

3) 学校の選択理由: Y高専を選んだ理由を表1-2の8項目の中から選択を求めた。全体で選択理由の第1位は、「自分の将来の目標に合っている」27.5%、ついで「専門が自分の性格・興味にむいている」21.9%、第3位は「中学の先生にすすめられた」16.2%、第4位は、「家の人にすすめられた」14.9%であった。学年別にみると、5年(Y高専開校2年目の入学学生)で選択率第1位の「中学の先生に…」(33.3%)は、2、3、4年では、20%台であり、

\* Institute of Health Science, Kyushu University, Hakozaki, Fukuoka 812, Japan.

\*\* Faculty of Education, Kyushu University, Hakozaki, Fukuoka 812, Japan.

\*\*\* Yatusiro Technical College, Hirayamasin-mati, Yatusiro 866, Japan.

1年では7.2%に減減少している。「家の人に……」の各学年の選択率は10%台であるが、2年では7.2%と低い。「世間の人々の評価……」では、2年、4年で11%選択されている。この項目の1, 3, 5年での選択率は低い。

4) 入学学科の満足度：入学(専攻)した学科の満足度を全学年でみると、「非常に満足」12.9%、「どちらかといえば満足」44.4%であり、合計57.3%が満足であると回答した。「どちらともいえない」24.5%、「どちらかといえば不満」15.6%、「不満」2.6%であった。学年別に平均得点で「満足度」を高い順にあげると、5年3.63, 4年3.60, 1年3.59, 2年3.48, 3年3.05であり、各学年を通じて入学学科への満足度は高かった。

5) 学校生活充実感：学校生活を全般的に考えたときの充実感をたずねた項目である。全学年で、「非常に充実感を感じる」0.3%、「かなり充実感を感じる」5.3%、普通45.0%、「あまり充実感を感じない」38.7%、「全く充実感を感じない」10.6%であった。充実感を感じないものの率が49.3%を占めた。学年別に平均得点で充実感の高い順にあげると、1年2.64, 5年2.57, 2年2.45, 4年2.37, 3年1.95であった。

全体的に低く、特に3年で低かった。

6) 勉強に重点をおいたときの学校生活の満足度：全学年でみると、「非常に満足」0.3%、「かなり満足」7.0%、「ふつう」40.7%、「あまり満足していない」44.4%、「非常に不満」7.6%であった。不満であると回答したものが52%を占めていた。学年別の平均点で満足度を高い順にあげると、1年2.63, 4年2.54, 2年2.42, 5年2.40, 3年2.14で、全体として低い傾向にあることがわかる。

「学校生活の満足度」を、1)から6)までの6個の要因について検討した。「入学願望度」、「入学努力」、「入学学科の満足度」は全体として高い傾向がみられた。しかし3年では、「入学願望度」、「入学努力」で他の学年に比して低くかった。「学校生活充実感」、「勉学を中心としたときの学校生活満足度」は、全体として低かった。その中でも3年は他に比して低い値を示した。

## (2) 学校生活適応度

1) 「学校生活」の感じ：「学校生活」についての大体の感じを、12項目について、「非常にそうである」、「かなりそうである」、「ある程度そうである」、「あまりそうでない」、「全然そうでない」の5段階

表1-1 各学年の平均得点と標準偏差

項目	学 年				
	1 N 125	2 69	3 43	4 35	5 30
入学願望度	3.408(.814)	3.130(.890)	2.977(.831)	3.400(.881)	3.000(.910)
入学努力	3.056(.910)	3.130(.890)	2.605(.791)	3.047(.975)	3.633(.809)
入学学科の満足度	3.592(.993)	3.478(.964)	3.047(.975)	3.600(1.090)	3.633(.809)
学校生活充実感	2.640(.700)	2.449(.718)	1.953(.722)	2.371(.843)	2.567(.817)
学校生活満足度	2.632(.724)	2.420(.673)	2.140(.861)	2.543(.741)	2.400(.724)

表1-2 学校の選択理由(選択率%)

理 由	学 年					計
	1 N 125	2 69	3 43	4 35	5 30	
自分の能力を考えて	5.6	8.7	9.3	5.7	6.7	6.9
家の人にすすめられて	18.4	7.2	16.3	17.1	13.3	14.9
中学の先生にすすめられて	7.2	20.2	20.9	20.0	33.3	16.2
自分の将来の目標に合っている	38.4	21.7	25.6	11.4	16.7	27.5
経済的理由	2.4	1.4	2.3	0	0	1.7
世間の人々の評価がよい	4.8	11.6	2.3	11.4	0	6.3
専門が自分の性格・興味にむいている	21.6	24.6	18.6	28.6	13.3	21.9
その他	1.6	4.3	4.7	5.7	16.7	4.6

で評定を求め、5点から1点を与え得点化した。項目毎の各学年の平均と標準偏差が表2-1に示されている。平均3.00以上の項目をあげると、3年では、「きゅうくつである」、「とりつくしまがない」、「エネルギーを集中するものがほしい」、「なまぬるい」の4項目であり、5年では、「きゅうくつである」、「エ

ネルギーを集中するものがほしい」、「勉強にうちこみたい」、「なまぬるい」の4項目であった。また、4年では「エネルギーを集中するものがほしい」の1項目である。

(2) 学校への適応：学校生活に関する項目を15項目作成し、「はい」、「どちらともいえない」、「いい

表2-1 学 校 生 活

学 年(N)	1 (125)	2 (69)	3 (43)	4 (35)	5 (30)
	平均(SD)	平均(SD)	平均(SD)	平均(SD)	平均(SD)
おちつかない	2.592(.794)	2.725(.838)	2.721(.934)	2.543(.817)	2.600(.968)
きゅうくつである	2.648(.918)	2.638(.970)	<b>3.163(1.090)</b>	2.657(1.056)	<b>3.200(.847)</b>
放任的	2.824(.843)	2.913(.853)	2.977(1.165)	2.971(.954)	2.567(.935)
とりつくしまがない	2.608(.717)	2.478(.678)	<b>3.000(.976)</b>	2.657(.938)	2.633(.999)
エネルギーを集中するものがない	2.864(.978)	2.957(1.143)	<b>3.465(1.241)</b>	<b>3.257(1.197)</b>	<b>3.300(1.055)</b>
勉強にうちこみたい	2.976(.875)	2.971(.970)	2.977(1.123)	2.886(1.022)	<b>3.300(1.291)</b>
強力に指導してほしい	2.664(.851)	2.667(.886)	2.953(1.112)	2.857(.879)	2.967(1.245)
なまぬるい	2.368(.866)	2.841(.949)	<b>3.047(1.214)</b>	2.829(.822)	<b>3.133(1.167)</b>
拒否的である	2.256(.728)	2.333(.866)	2.860(1.187)	2.486(.887)	2.800(1.157)
明るい	2.808(.868)	2.913(.935)	2.326(.837)	2.943(.802)	2.933(1.081)
つらい	2.576(.909)	2.362(.954)	2.721(.882)	2.429(1.037)	2.067(.640)
楽しい	2.856(.904)	2.826(.939)	2.093(.895)	2.829(.985)	2.767(.898)

表2-2 学 校 生 活 (選択率 %)

学 年	1	2	3	4	5	計
	125	69	43	35	30	
時々学校を休みたくなる	48.8	49.3	72.1	51.4	46.7	52.3
学校(講義)に遅刻することが多い	2.4	3.0	11.6	2.9	3.3	4.0
学校や研究室にいるより家にいる方が好きだ	60.0	46.4	51.2	48.6	40.0	52.3
必修単位をおとすことがしばしばだ	26.4	15.9	30.2	11.4	13.3	21.5
病気で学校を休みがちだ	3.2	3.0	4.7	5.7	0	3.3
必要な講義だと思ってるのにどうしても足がむかない	12.0	14.5	23.3	25.7	26.7	17.2
講義がむずかしすぎる	19.2	23.2	44.2	28.6	16.7	24.5
学校や研究室に出かけても何となく手持ぶさたである	15.2	31.9	53.5	25.7	36.7	27.8
めんどろな勉強には根気がつづかない	39.2	52.2	62.8	45.7	53.3	47.7
他の学校や別の学科に変わりたいと思うことがある	42.4	21.7	41.9	34.3	30.0	35.4
自分の尊敬する先生がいる	25.6	37.7	23.3	40.0	36.7	30.8
学校生活の中でリーダーとして行動することが多い	5.6	4.3	2.3	17.1	6.7	6.3
自分の学科は自分に合っている	53.6	49.3	46.5	62.9	46.7	58.6
学友たちと楽しくやっている	63.2	56.5	53.5	54.3	63.3	59.3
自分を知ってくれている先生がいる	15.2	26.1	25.6	25.7	33.3	22.2



え)のいずれかで回答を求めた。「はい」と答えたものの率を学年別に表2-2に示した。全学年で高い率を示した項目についてみると、「時々学校を休みたくなる」は全体で52.3%で、とくに3年は高率(72.1%)を示した。「学校(研究室)にいるより家の方がすきだ」(52.3%)は、高学年になるほど減少の傾向がみられ、学校への帰属感が高まっていることがわかる。「めんどろな勉強には根気がつづかない」は47.7%で、

1年以外で高率を示した。「自分の学科は自分にあっている」(58.6%)は、とくに4年で高い。「学友たちと楽しくやっている」は全体で59.3%であった。3年を特色づける項目として、「時々学校を休みたくなる」72.1%(平均52.3)、「講義がむずかしすぎる」44.2%(平均24.5)、「学校や研究室にいても何となく手もちぶさたである」53.5%(平均27.8)をあげることができる。さらに、1年と3年で「他の学校や別

表2-3 進路 (選択率%)

学年 N	1	2	3	4	5	計
	125	69	43	35	30	
高専卒業	72.0	73.9	76.7	82.9	76.7	74.8
大学専門課程進学	6.4	5.8	14.0	8.6	3.3	7.3
大学院進学	5.6	1.4	0	5.7	13.3	4.6
高校卒業	0.8	1.4	0	0	0	0.7
わからない	15.2	17.4	7.0	5.7	6.7	12.6

表2-4 相談相手

学年 N	1	2	3	4	5	計
	125	69	43	35	30	
相談相手がいる	93(74.4)	49(71.0)	22(51.2)	24(68.6)	23(76.7)	211(69.9)

( )%

表2-5 誰に相談するか (選択率%)

学年 N	1	2	3	4	5	計	順位
	93	49	22	24	23		
指導(担任)教官	10.8	4.1	9.1	0	4.3	7.1	10
サークルの顧問	0	0	0	8.3	0	0.9	13
サークルの先輩	11.8	10.2	13.6	0	0	9.0	8
サークルの同僚	15.1	8.2	13.6	8.3	8.7	11.8	6
学科の先輩	5.4	6.1	4.5	4.2	0	4.7	11
学科の同僚	34.4	40.8	40.9	45.8	47.8	39.3	2
寮の先輩	11.8	8.2	18.2	4.2	0	9.5	7
寮の同僚	45.2	36.7	45.5	43.5	30.4	41.2	1
寮担当の先生	1.1	0	4.5	0	0	0.9	13
寮担当の事務の人	0	0	0	0	0	0	—
父 親	26.9	12.2	13.6	8.3	4.3	17.5	5
母 親	28.0	22.4	27.3	8.3	8.7	22.3	4
兄 弟	11.8	6.1	4.5	0	4.3	7.6	9
学外の友人	32.3	12.2	13.6	25.0	17.4	23.2	3
その他	2.2	0	9.1	8.3	13.0	4.3	12

の学科に変わりたい」が42.4, 41.9%を示し、「必須単位をおとすことがしばしば」は、1年26.4%, 3年30.2%で他の学年より高い率を示した。また「必要な講義だと思っているのにどうしても足がむかない」は学年が進むにつれて高率を示した。「自分を知っている先生がいる」も学年が進むに従って高率を示しているが、これは学校（教師）への親密度が増していることがうかがえる。

3) 進路：学校はどこまで進みたいか、「高専卒業」、「大学専門課程進学」、「大学院進学」、「高校卒業」、「わからない」のいずれかで回答するように求めた（表2-3）。高専卒業を希望するものは74.8%, 卒業後、他大学専門課程への進学を希望するもの7.3%, さらに大学院への進学を希望するものは4.3%であった。わからないと答えたものは全体の12.6%で、1, 2年に多かった。高校卒業でよいと答えた2名（1, 2年）については、高専への不適合を示していると考えられる。

4) 困ったときの相談相手：学校生活で困ったときの相談相手がいるかと、誰に相談するかについて回答を求めた。相談相手があると答えた数が表2-4に示されている。相談相手があると答えた211名（69.9%）に、誰に相談するか15の選択肢から選択を求めた。表2-5は学年別の各項目の選択率と全学年での選択順位が示されている。全体で選択順位の高い順にみると、寮の同僚、学科の同僚が相談相手として多く選ばれ（1～2位）、3位から5位の選択をうけたものは、学外の友人、母親、父親で、6位から8位はサークルの同僚、寮の先輩、サークルの先輩が選ばれた。9位から11位は、兄弟、指導（担任）教官、学科

の先輩であった。13位サークルの顧問、寮担当の先生の選択率は0.9%であり、寮担当の事務の人は、相談相手としては選択されなかった。

「相談相手がない」と答えた人に、その理由を表2-6に示した6個の選択肢の中から回答を求めた。「今困っている問題はない」と答えたものは22名（24.2%）であった。38名（41.3%）は、「他の人は所詮自分のことを本当に理解できないし、適切な助言を期待できない」とし、ついで、「いままで、適当な相談相手に恵まれず、自分で解決してきた」を選んだものは18名（19.8%）、同じく、「いつかは誰かに相談しようと思っているが決心がつかないでいる」を選んだものも18名（19.8%）であった。「自分の問題は自力で解決するよう親からきびしくしつけられてきた」は2名（2.2%）であった。

学校生活については、「3年でもっとも不適応の傾向がみられ、4年、5年と専門性が明確になるにつれて、その度合は減少する。「学生生活」で困ったときの「相談相手がいる」と答えたものは全体の69.9%で、その80%のものが相談できる人として学科や寮の同僚をあげた。サークルや寮担当の教官、寮担当の事務の人は相談相手としてほとんど選ばれなかった。

### (3) 寮生活

1) 寮生活満足度：寮生活の満足度を「非常に満足」、「かなり満足」、「普通」、「あまり満足していない」、「全く不満」の5段階で評定を求めた（表3-1）。「非常に」、「かなり」満足なものは合わせて6.9%、「普通」43.7%、「あまり満足でない」37.7%、「全く不満」11.6%であった。不満の度合を学年

表2-6 「相談相手がない」と答えた理由（選択率 %）

理 由	学 年					計
	1	2	3	4	5	
	32	20	21	11	7	91
自分の問題は自分で解決するように厳しく親からしつけられてきたから	0	10.0	0	0	0	2.2
他の人は所詮自分のことを本当に理解できないし、適切な助言を期待できないと考えるから	46.9	25.0	52.4	36.4	42.9	41.3
過去において相談相手に裏切られ、不愉快な思いをしたことがあり、他の人を信じられないので	0	5.0	4.8	0	0	2.2
いままで、適当な相談相手に恵まれず、自分で解決してきたから	25.0	25.0	4.8	27.3	14.3	19.8
いつかは誰かに相談しようと思っているが、決心がつかないでいる	9.4	20.0	28.6	18.2	42.9	19.8
今、困っている問題はない	31.3	30.0	9.5	27.3	14.3	24.2

別に平均点で比較すると、学年が進むにつれて不満が増し、3年を頂点として、4年、5年で不満の割合が減少していることがわかる。

2) 寮生活の評価：寮生活に関しての15項目について「全く同感だ」、「かなり同感だ」、「どちらともいえない」、「あまり同感できない」、「全く同感できない」の5段階で評定を求め、それぞれ5点から1点までの得点を与えた。表3-2は各項目の平均得点と標準偏差が学年別に示されている。寮生活へのプラスの評価として、平均得点3.00以上の項目は全学年で、「友人がしやすい」、「人間性に幅ができる」、「社会性が養われる」、「規則的生活を送ることができる」、「自立の精神を養う」であり、また、1年と5年で、「教官との人間的接触が増す」、4年で、「責任感・リーダーシップが養われる」が肯定的評価を得ていた。マイナスの評価としては、「時間にしばられ

る」(1, 3, 5年)、「プライバシーの保持が困難」(1~5年)、「鉄筋でおちつかない」(1, 3, 4, 5年)、「常識に欠けるようになる」(1~5年)などをあげることができる。

3) 寮の学生指導者の評価：寮の学生指導者に対する評価を、集団目標達成機能と集団維持機能の面からリーダーシップを評価する項目を10項目作成し、「いつも」、「しばしば」、「ときどき」、「あまり」、「全く」の5段階で評定を求め、それぞれに5から1点を与え得点化した。学年別の平均得点と標準偏差を表3-3に示した。集団目標達成機能である、「規則を守るようにやかましくいう」、「指示命令を与える」では全学年にわたって、得点が高く、「綿密に計画をたてている」、「施設の改善に努力する」では、1年、2年で、リーダーは高い評価を得ている。「計画・手順のまずさ」では、5年だけが高い得点を示してい

表3-1 寮生活満足度(%)

(得点) 項目	学年					計
	N	1	2	3	4	
	125	69	43	35	30	302
(5) 非常に満足している	0	0	0	0	3.3	0.3
(4) かなり満足している	10.4	4.3	4.7	5.7	0	6.6
(3) 普通	55.2	42.0	27.9	31.4	36.7	43.7
(2) あまり満足していない	28.8	44.9	37.2	45.7	50.0	37.7
(1) 全く不満である	5.6	8.7	30.2	17.1	10.0	11.6
平均	2.704	2.420	2.070	2.257	2.367	
S D	.730	.715	.884	.817	.809	

表3-3 寮の学生指導者への評価

	学年				
	N	1	2	3	4
	125	69	43	35	30
規則を守るようにやかましくいう	3.440(.756)	3.652(.937)	4.023(.913)	3.629(.808)	3.800(.805)
指示・命令を与える	3.144(.830)	3.493(.793)	3.721(.959)	3.400(.775)	3.400(1.037)
計画・手順がまずい	2.392(.739)	2.449(.718)	2.930(.936)	2.857(.810)	3.100(1.029)
自分の態度のまずさをせめられる	2.296(.803)	2.435(.848)	2.821(1.098)	2.257(.886)	2.133(.937)
綿密に計画をたてている	3.320(.989)	3.290(.956)	2.977(.913)	2.714(.825)	2.600(.932)
気わすい雰囲気ときほぐす	2.824(.925)	2.435(.757)	2.279(.701)	2.257(.701)	1.933(.521)
設備の改善に努力する	3.240(.807)	3.029(.891)	2.814(.906)	2.886(.932)	2.700(1.149)
自分の意見をもとめる	3.032(.870)	2.942(.889)	2.767(.895)	2.857(.912)	2.500(1.009)
自分の立場を理解してくれる	2.944(.836)	2.681(.813)	2.512(.960)	2.629(.843)	2.433(1.040)
個人の問題に気をくばる	2.568(.775)	2.348(.724)	2.279(.882)	2.257(.741)	2.133(.860)

る。集団維持機能を測る項目では、1年で「自分の意見を求める」平均3.03であり、他の学年では低く評価されている。「気まずい雰囲気をとほぐす」、「自分の立場を理解する」、「個人の問題に気を配る」の項目についても全体的に低かった。また「自分の態度のまづさをせめられる」も平均得点は高くなかった。

寮生活に関して、全学年を通して肯定的な評価を得たものと、学年によって、評価がわかれたものがみられた。マイナスの評価としての「常識に欠けるようになる」は、寮生の生活空間の広がりやのせまきとも関係しているように思われる。寮の指導者にたいする評価から、寮生活の統制に目が向けられていて、集団のメンバーシップを高めることにはまでは配慮が行なわれていないように思われる。

### まとめ

学生生活・寮生活に関する質問紙調査の単純集計結果からいくつかの分析を行なった。世界青年の意識調査の結果では、日本の青年の学校生活に対する不満の割合は、第1回(1972)の調査では45%、第2回(1977, 1978)では、33%を占め、他の国に比して不満の割合が非常に高いことが示された。<sup>1)</sup> 松原(1979)<sup>2)</sup>は、日本の青年について、「生活の各領域で不満である傾向が強く、全体的ばくぜんとした不満像を持

つ青年の比率がかなりの率でいる」という報告を行なっている。今回の報告でも、学校生活や寮生活に関して、非常に満足度が低いことが示された。また、年齢(学年)によっても、その不満の割合が異なることも示された。しかし、入学の満足度に示されるように、高い満足度を示すものもあった。

寮生活は、集団生活そのものであり、ましてや全寮生を施き、キャンパスの中に寮が存在する、我が国ではユニークな学校生活の場合、その満足度は、種々の要因が関与する。集団がどのような特質をもち、集団の運営はどう行なっていけばよいか。集団に関して、今まで得られている知見をフルに活用し、集団を知り、リーダーを養成し、メンバーシップを育てていくことは寮生活者の満足度に大きく関わってくると思われる。

今回の調査ではキャンパスコミュニティの中の、精神衛生に関わる個々人の不健康の指標(精神障害や学校不適応に関する資料)はとられていない。しかし、寮生活・学校生活への不適応者への個別的な関わりも重要であろう。集団の課題達成機能だけでなく、集団を維持していくための方策がとられることが今後必要なことと思われる。ともあれ心理学を専攻するもの(社会心理学であれ臨床心理学であれ)がキャンパスコミュニティからの介入の要請にどのように応じ、ま

表3-2 寮生活

学年	1	2	3	4	5
	N	125	69	43	35
時間にしばられる	3.800(.961)	3.652(1.012)	3.907(.971)	3.714(1.045)	3.800(.961)
友人ができてやすい	3.633(.718)	3.652(.855)	3.651(.783)	3.714(.825)	3.633(.718)
人間性に幅ができる	3.400(.894)	3.188(.989)	3.093(.947)	3.543(.919)	3.400(.894)
睡眠がじゃまされる	3.100(.803)	2.942(1.013)	3.256(1.093)	2.743(.852)	3.100(.803)
責任感・リーダーシップが養われる	2.833(.874)	2.928(.928)	2.442(.908)	3.057(.998)	2.833(.874)
学習の能率があがる	2.400(1.003)	2.710(.824)	2.326(.944)	2.857(.810)	2.400(1.003)
社会性が養われる	3.433(.774)	3.333(.852)	3.070(.936)	3.229(.690)	3.433(.774)
プライバシーの保持困難	3.400(1.070)	3.493(.797)	3.651(.948)	3.543(.886)	3.400(1.070)
共同生活になじめない人は孤立しやすい	3.767(.935)	3.638(1.000)	4.070(.768)	3.971(.664)	3.767(.935)
教官との人間的接触が増える	3.200(.664)	2.507(.851)	2.372(.874)	2.714(.926)	3.200(.664)
教官との接触で学習意欲が増す	2.233(.626)	2.246(.793)	2.047(.722)	2.343(.838)	2.233(.626)
規則正しい生活	3.133(.937)	3.246(.930)	2.953(.999)	3.171(1.014)	3.133(.937)
自律の精神を養う	3.433(.971)	3.667(.780)	3.512(.827)	3.800(.759)	3.433(.971)
鉄筋でおちつなかい	3.233(1.040)	2.870(.984)	3.302(.036)	3.143(1.167)	3.233(1.040)
常識に欠けるようになる	3.567(1.073)	3.899(1.113)	4.048(1.081)	3.771(1.003)	3.567(1.073)

た、実際にどのようにかかわっていくか<sup>3)</sup>が、今後の残された課題であるように思われる。

#### 引用文献

- 1) 日本の青年—世界青年意識調査(第2回)結果報告書, 総理府青少年対策本部, 1978。
- 2) 世界の中の日本の青年—世界青年意識調査(第2回)を中心として, 国際シンポジウム報告書, 総理府青少年対策本部編, 1979。
- 3) コミュニティ心理学, S・Aマレル, 安藤延男監訳, 新曜社, 1977。